

平成 22 年 3 月期 第 3 四半期連結決算概要

平成 22 年 1 月 29 日
東京瓦斯株式会社

1. 連結決算実績 (21 年 4 月～12 月)

(1) 全体概要 (単位: 百万 m³、億円、円)

	当四半期	前年同期	増 減	増減率(%)	(参考)個別決算
ガス販売量	9,434	10,055	△621	△6.2	9,078
売上高	9,653	11,613	△1,960	△16.9	8,218
営業利益	435	△139	574	—	266
経常利益	473	△180	653	—	284
四半期純利益	316	△73	389	—	189
1株当たり四半期純利益	11.68	△2.78	14.46	—	7.00
1株当たり純資産	292.82	284.72	8.10	2.8	246.26

(注1) 1株当たり純資産は21年3月期末との比較

(注2) 連結会社数: 連結子会社61社・持分法適用関連会社4社

- 売上高は、原料費調整制度に基づく料金単価調整及びガス販売量の6.2%減等により、ガス売上高が18.7%減の7,039億円となったこと等から16.9%減の9,653億円となりました。
- 営業費用は、ガス原材料費が減少したこと等により21.6%減の9,218億円となりました。この結果、営業利益は574億円改善の435億円となり、これに為替レート差損益60億円他を加え、経常利益は653億円改善の473億円となりました。
- 四半期純利益は、経常利益の改善に対し、前年同期にリース会計基準影響額他94億円の特別利益の計上があったため、389億円改善の316億円となりました。

(2) ガス販売量

		当四半期	前年同期	増 減	増減率(%)		
お客さま件数		千件	10,593	10,456	137	1.3	
ガス販売量	家庭用	百万m ³	2,075	2,116	△41	△1.9	
	業務用	商業用	百万m ³	1,419	1,499	△80	△5.3
		その他用	百万m ³	690	672	18	2.7
	工業用	百万m ³	3,935	4,413	△478	△10.8	
	計	百万m ³	6,044	6,584	△540	△8.2	
	他事業者向供給	百万m ³	1,315	1,354	△39	△2.9	
	合計	百万m ³	9,434	10,055	△621	△6.2	
平均気温		℃	19.5	19.4	0.1	—	

(注1) 販売量は45MJ/m³表記としております。(注2) その他用: 公用・医療用

- 家庭用需要は、主として第1四半期連結会計期間の気温が高く推移した影響で給湯需要が減少したこと等により1.9%減少いたしました。
- 商業用需要は、長引く景気低迷による需要減に加え、春先は主たる需要の給湯が高気温の影響により減少し、夏季の主たる需要である空調が低気温の影響で減少したこと等により5.3%減少し、その他用需要は、新規お客さまの設備稼働等により2.7%増加いたしました。
- 工業用需要は、既存設備の稼働減等により10.8%減少いたしました。
- 他事業者向供給は、供給先事業者の需要の減少等により2.9%減少いたしました。

(3) 収支概要 (単位: 億円)

収 益		増 減	増減率(%)	費 用		増 減	増減率(%)	
ガ ス	7,039	△1,619	△18.7	ガ ス	原材料費	3,349	△2,333	△41.1
	その他				2,957	167	6.0	
				計	6,307	△2,165	△25.6	
ガス以外	3,645	△528	△12.7	ガス以外	3,471	△533	△13.3	
				全社費用	483	△23	△4.4	
事業間内部消去	△1,030	188	—	事業間内部消去	△1,044	186	—	
売上高	9,653	△1,960	△16.9	営業費用	9,218	△2,535	△21.6	
				営業利益	435	574	—	
営業外収益	165	35	26.2	営業外費用	126	△45	△26.5	
				経常利益	473	653	—	
特別利益	—	△94	—	特別損失	—	—	—	
				四半期純利益	316	389	—	

(注1) ガス以外の内訳は「(4) 部門別の概況」参照。

(注2) 全社費用とは各事業に配賦不能の営業費用です。

(4) 部門別の概況 (単位: 億円)

	売 上 高		増 減	増減率(%)	営 業 利 益		増 減	増減率(%)
	当四半期	前年同期			当四半期	前年同期		
ガ ス	7,039	8,658	△1,619	△18.7	731	185	546	293.5
ガス器具	891	915	△24	△2.6	31	34	△3	△8.2
受注工事	293	319	△26	△8.0	△12	△14	2	—
不動産賃貸	253	268	△15	△5.8	59	70	△11	△15.4
その他	2,207	2,670	△463	△17.3	94	78	16	19.9
ガス以外	3,645	4,173	△528	△12.7	173	168	5	2.8

(注) 売上高には事業間の内部取引を含んでおり、営業利益には配賦不能営業費用を含んでおりません。

(5) 主要計数

	当四半期	前年同期	増 減	増減率(%)
原油価格 (\$/bbl)	66.46	105.07	△38.61	△36.7
為替レート (円/\$)	93.61	102.92	△9.31	△9.0
設備投資 (億円)	963	1,014	△51	△5.0
有利子負債 (億円)	6,035	5,932	103	1.7
支払利息等 (億円)	78	84	△6	△7.2
その他有価証券評価益 (億円)	301	183	118	64.7
営業キャッシュ・フロー (億円)	1,383	953	430	45.1
R O A (%)	1.8	△0.4	2.2ポイント	—
R O E (%)	4.1	△1.0	5.1ポイント	—

(注1) 営業キャッシュ・フロー=当期純利益+減価償却費等

(注2) 有利子負債及びその他有価証券評価益は21年3月期末との比較

2. 通期 (22 年 3 月期) の業績予想

前回の業績予想に対して、前提となる経済フレームにつき、直近の市況を反映し、通期の原油価格見通しを69.85\$/bbl(1月以降平均80\$/bbl)に変更しました。なお、1月以降の為替レートの見通しについては90円/\$に変更し、通期の為替レート見通しは92.71円/\$となります。

その結果、連結業績予想については、当社及び連結子会社の業績予想の修正により、売上高は30億円増の1兆4,100億円、営業利益は120億円増の840億円、経常利益は120億円増の840億円、当期純利益は70億円増の550億円と、それぞれ前回業績予想を上回る見通しです。

当社の個別業績予想については、前回の業績予想に対して、家庭用及び工業用需要の回復等でガス販売量が前回見通しを上回ること等により、売上高は60億円増の1兆2,080億円となる見通しです。一方、為替レートが円高に振れ原材料費が減少すること等により、営業利益は90億円増の610億円、経常利益は80億円増の620億円、当期純利益は50億円増の410億円と、それぞれ前回業績予想を上回る見通しです。

(単位: 百万m³、億円)

	連結決算				(参考)個別決算			
	通期業績 予想	対前期 増減	増減率 (%)	対前回 増減	通期業績 予想	対前期 増減	増減率 (%)	対前回 増減
ガス販売量	13,566	△376	△2.7	68	13,045	△544	△4.0	78
売上高	14,100	△2,501	△15.1	30	12,080	△2,401	△16.6	60
ガ ス	10,395	△2,180	△17.3	7	10,060	△2,197	△17.9	10
ガス以外	3,705	△320	△8.0	23	2,020	△204	△9.2	50
営業利益	840	188	28.8	120	610	185	43.4	90
経常利益	840	257	44.0	120	620	222	55.5	80
当期純利益	550	133	31.9	70	410	160	63.4	50

(注) 事業間の内部取引高はガス以外の欄で調整しています。

<前提となる経済フレーム>

	今回通期見通し	対前期増減	増減率(%)	対前回増減	増減率(%)
原油価格 (\$/bbl)	69.85	△20.67	△22.8	3.94	6.0
為替レート (円/\$)	92.71	△8.00	△7.9	△2.56	△2.7

(注1) 原油価格: 前期実績90.52\$/bbl、前回見通し65.91\$/bbl

(注2) 為替レート: 前期実績100.71円/\$、前回見通し95.27円/\$